

第4回当別町史編さん委員会 会議概要

日 時：令和元年10月30日（水） 午前10時

出席者：（事務局）一宮総務部長、長谷川総務課長、五東総務係長、藤原主査
山崎教育部長、石川社会教育課長、飛山文化財保護係長、下村主任
倉田歴史研究専門員
（株）須田製版担当者

（委員）竹田委員長、松尾副委員長、野口委員、大口委員、曾川委員、大畑委員

1 開 会 長谷川総務課長

2 挨拶 竹田委員長

3 議 事

(1) 当別町史編さん業務委託の事業者の決定及び当別町史編さんの構成案並びに編さんスケジュールについて

事務局より業務委託の事業者が（株）須田製版に決定したことを報告し、（株）須田製版より当別町史の構成案について説明した。

資料収集の基本方針については、特定の分野に偏ることなく広く収集。また、プライバシー保護の観点から個人の特定されるような資料を公にする場合は所蔵機関の許可を得る。資料収集の範囲と収集方法については、文献、新聞記事、遺物・遺跡など。町民に情報提供を呼び掛けることも予定している。さらに図書館と国立情報学研究所の検索システム（Webcat Plus）を活用し、資料を収集していく。収集した資料については、（株）須田製版の社内に資料室を設けて、そこに整理していく。

新当別町史の構成及び編集方法について、編集の基本方針としては、今回の町史は当別町の地域社会の在り様を多様な資料から振り返って、未来の町民への贈り物になるような貴重なレガシー、遺産になるべきものと考えて取り組む。また、既刊の当別町史との連続性を考慮して、町民が自分たちの歴史を実感でき、また親しみを感じられるような構成というのを考えていく。編集方法については、監修者のもと、執筆担当者が分野ごとに書いていくという方法。

構成案については、全体を3部構成として、第1部を自然環境編、第2部を通史編、第3部を本編とする。具体的な構成案は以下のとおり。

カラーグラビア 約30頁

第1部 自然環境編 約50頁

- (1) 気象
- (2) 地勢・土壌・地質・河川など
- (3) 植物…森林、樹木、草本、菌類（きのこ）など
- (4) 動物…哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫など

- (5) 地名
- (6) 自然保護への取り組み

第2部 通史編－1970年以前の当別町の歩み 約130頁

- (1) 町内遺跡の考古学的考察 約20頁
- (2) 当別町のアイヌ文化 約30頁
- (3) 近世・松前藩の時代-石狩川と石狩13場所 約30頁
- (4) 近代の当別町－明治初年から1945年まで 約30頁
- (5) 現代の当別町－1945年から1970年まで 約20頁

第3部 本編－1970年以降、現在までの当別町の歩み

- (1) まちの姿の移り変わり 約100頁
 - ① 人口の推移
 - ② 市街地の形成－札幌市のベッドタウン化
 - ③ スウェーデンヒルズの形成
 - ④ 村の変貌-各集落・自治会の変遷
 - ⑤ 町村の合併について
- (2) 行政 約120頁
 - ① 行政組織の移り変わり
 - ② 町民参加型の町政
 - ③ 総合計画と地方創生
 - ④ 国際・国内交流
 - ⑤ 財政-ふるさと納税を含む
 - ⑥ 議会
 - ⑦ 消防と防災
 - ⑧ その他の行政機関（自衛隊、国の出先機関など）
- (3) 町民の暮らし 約100頁
 - ① 少子高齢化の進行
 - ② 子育て支援
 - ③ 地域コミュニティ
 - ④ 医療・健康・福祉
 - ⑤ 住民運動
 - ⑥ 環境保護とリサイクル
 - ⑦ 町内への移住促進
- (4) 教育 約100頁
 - ① 学校教育
 - ② 北海道医療大学
 - ③ 社会教育-施設・事業

- (5) 社会的インフラストラクチャーの整備 約 120 頁
 - ① 交通網・交通機関-国道・JR 学園都市線
 - ② 道の駅とうべつ
 - ③ 公営住宅
 - ④ 上下水道・電気・ガス
 - ⑤ ダム・河川等の施設
 - ⑥ 土地改良区事業
- (6) 産業 約 120 頁
 - ① 第一次産業－農業、農協を含む
 - ② 第二次産業－製造業、建設業など
 - ③ 第三次産業－サービス業、観光を含む
 - ④ 産業振興・観光振興・再生可能エネルギーへの取り組み
- (7) 文化と宗教 約 30 頁
 - ① 文化財
 - ② 文化にかかわる施設・サービス
 - ③ 祭り・イベント
 - ④ 宗教
- (8) 災害・出来事 約 30 頁
 - ① 石狩川の水害などの自然災害及び住民の声等
 - ② 事件・事故等
 - ③ 出来事…当別町を舞台とした文学作品等を含む
- (9) 資料編 約 50 頁
- 年表 約 15 頁
- 資料（参考文献） 約 5 頁

委員より以下の質問があった。

（委員）

町の姿の移り変わりの部分で、大きく地域が変わってきていて、無くなってしまった地域などは特に詳しく記述していただきたい。

また、開拓 100 年以降のことだけではなく、当別町の開拓の流れがわかるような町史にしていいただきたい。

（事務局）

ページ数等、今後委員の皆様や事業者の方とも相談しながら考えていきたい。

（委員）

100 年史は昔の文書をそのまま載せていたが、現代文にしていだけたら町民も読みやすくなると思う。

(事務局)

読まれる方がわかりやすいということを原則に作成したい。原文は原文のまま載せるが、現代文だということを言っていると記載する。

(委員)

当別町のアイヌ文化、近世松前藩の時代はページ数が限られている中、入れなければならぬ内容か。

(事務局)

アイヌ文化の資料については、道内各地にはあるが、当別町に限ってみるとあまり残っていない。石狩地方を見れば、そこから当別町でもこういった活動をしていたのではないかと推測できる程度。執筆の先生と相談して、分量を考えたい。

次回会議の日程を 12 月 20 日とし、閉会した。